

## 方法書について環境保全の見地からの意見を有する者からの意見及び事業者の見解

## 環境影響評価方法書の公告・縦覧および意見募集について

- 公 告 日 : 平成22年11月4日 (木)
- 縦 覧 期 間 : 平成22年11月4日 (木) から平成22年12月3日 (金)
- 縦 覧 場 所 : 長野県環境部自然保護課、上伊那地方事務所環境課  
: 伊那市役所市民生活部生活環境課  
: 伊那市高遠町総合支所市民生活課  
: 伊那市長谷総合支所市民生活課  
: 伊那市役所の支所 (富県、美篤、手良、東春近、西箕輪、西春近)  
: 上伊那広域連合環境衛生課
- 意 見 募 集 期 間 : 平成22年11月4日 (木) から平成22年12月17日 (金)
- 意 見 提 出 先 : 上伊那広域連合環境衛生課
- 意見書の提出人数 : 30 人

## 特記事項

- ① 方法書の目次に沿って、意見者ごとにお答えします。意見者は仮称アから50音順にカタカナ表示で記載しています。
- ② 意見書に対する見解は、基本的に上伊那広域連合が行っております。
- ③ 同様の意見に対しては「〇の見解と同じ」という表現で記載しています。

## 第1章 事業計画の概要

項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
1 事業の目的及び必要性	1	キ	<p>ごみを広域で処理することに対する疑問                      広域各地はごみの減量化につとめその成果を上げつつある                      その流れに逆行しごみを大量に必要とする大型ごみ焼却場を                      建設するメリットは何か？ごみ運搬車両の往来による沿線住                      民への排ガス公害による健康不安・被害を生ずる危険まで冒                      してまでして建設することに疑問を持つ                      広域各地で単独処理した方が遥かに安上がりでリスクも低い                      のではなかろうか</p>	<p>◆ごみの広域処理について                      長野県ごみ処理広域化計画に基づき、圏域から排出される可                      燃ごみの処理を一本化するものです。                      計画している施設の時間当たりの処理能力は現在の施設より                      小さい施設となります。これは、圏域住民の皆様がごみの減                      量化に取り組んでいただくことが前提の規模です。                      ◆ごみを集約して処理することのメリットは、①熱利用の効                      率化、②燃焼の安定化、③処理の効率化が挙げられます。                      集約することにより小規模施設では困難な発電が可能とな                      り、ごみの持つエネルギーを最大限有効に利用することで温                      室効果ガスの排出抑制が図れます。また、ごみは非常に不均                      一な燃料であることから、少量ずつ燃やすより、一箇所に集                      約して一定量を連続的に処理する方が燃焼を安定化させやす                      く、結果として不完全燃焼が原因で発生しやすいダイオキシ                      ン類を削減することができます。さらに施設数が減少するこ                      とにより運転や管理に必要な人件費を削減することができます。                      ご指摘のように、集約するとごみの運搬距離が延びるデ                      メリットはありますが、上述したようなメリットの方が大き                      く、結果として住民負担の軽減につながります。                      ◆ごみ運搬車両による沿線住民への排ガス影響について                      ごみ運搬車両による沿線住民への排ガスによる影響につきま                      しては、道路周辺大気について調査、予測・評価を行いま                      す。</p>
2 事業の目的及び必要性	1	チ	<p>現在、ごみの減量、分別に市民達は努力しているときに、大                      型のごみ焼却場を建設することの意味がよくわかりません。                      焼却炉の様式によっては大量のごみが必要になってしまっ                      たりはしないのですか？                      ごみの処分というのは、とても大事なことだと思いますが、                      近くに住んでいる住人達の生活を不安にまで、大型の施                      設は必要ないと思います。                      住民にとって不安のない施設にするようお願いします。</p>	<p>◆大型のごみ焼却場について                      1の見解を参考にしてください。</p> <p>住民の皆様のご不安の解消に努めてまいります。                      なお、焼却炉はできるだけ定格に近い量のごみを処理するこ                      とが燃焼の安定化につながりますが、圏域の皆さんのごみ減                      量化の努力で焼却対象ごみがさらに減少した場合は、方法書                      p.6のとおり、同一規模の炉を2炉建設する計画ですので、2                      炉運転日数を減らし1炉運転日数を増やすなどして施設とし                      ての処理能力を調整することにより適正な運転を継続します。                      決して多くのごみを必要とする施設ではありません。</p>

## 第1章 事業計画の概要

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
3	最終候補地決定の経過	2	ク	新ゴミ処理施設建設予定地は、背後に高い山があり、低地であることから、排ガスは美篤側に多く来ることが考えられる。この時代にあつて応分の負担はやむを得ないが、著しく公平さを欠くものである。こうした用地選定は到底納得できるものではない。（健康被害は1例もないというが因果関係の立証は困難であるし、被害は100年、200年と長い時間がたたないとわからない）また、上伊那全体のゴミが来ることから、美篤が上伊那全体の犠牲となっていると考えるべきである。こうしたことに深く思いをいたしていただき、施設について安価にと考えるのではなく、健康、環境を最優先すべきである。そして、環境影響評価は、そこまでしなくてもよいのではというところまでやっていただきたい。（絶対に必要ないと言い切れるならよいですが）	現在建設されるゴミ焼却施設におきましては、排ガス対策は確立されております。また、全国には1200か所余のゴミ焼却施設がありますが、施設が原因で健康被害にあった例は一例もありません。 安全・安心な施設となるよう万全を期してまいります。 環境影響評価においても、十分な調査地点数を設定するとともに、地形の影響を考慮した予測を行うことにより、的確な評価が可能と考えています。
4	最終候補地決定の経過	2	ス	伊那市の防災マップによると、手良中坪から南方へ向けて活断層が見受けられます。その先は焼却場建築予定地にもぐり込んでいます。予想される東海地震の発生時に安全といえるでしょうか。	現在のごみ焼却施設は、想定される最大級の地震に耐えうる施設が建設されています。こうしたことを踏まえ、ボーリング調査を実施し今後施設計画の中で、想定される地震に耐えうる施設を計画します。
5	最終候補地決定の経過	2	ハ	このような施設を作る場合、回りが広く開けており、そのような場所で高い煙突から有害な物質を含む煙をできるだけ広く拡散させてしまうというのが基本的な考え方だと思う。今回の建設予定地は、回りが複雑な地形であり、またすぐ横は地すべり危険地帯でもあり、なぜこのような場所が建設予定地に選定されたのか、全く理解できない。	方法書に関連する事項ではありませんので、お答えすることができません。

## 第1章 事業計画の概要

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
6	最終候補地決定の経過	2	ス	<p>新ゴミ焼却場選定委員会は、この候補地の選定にあたって、選定項目の最重要項目である。風向と住民の意向の項目をなぜか除外したまま最終決定をし解散してしまいました。</p> <p>(イ) 風向動行の調査資料は伊那市誌に昭和40年代に調査した資料が載せられているが、なぜ之を無視したのでしょうか。</p> <p>(ロ) 「川下り米」は伊那市がブランド米として売り出す計画が現白鳥市長（前小坂市長も）が発言されていますが、選定委員会では之が風評被害が心配されると位置付けられていたが、結果的に三峯川流域＝川下り米の生産地のど真中に焼却場を設置するとしたのはなぜか？</p> <p>地域住民、特に之が生産者の意向調査を行う必要があると思います。いかがでしょうか。</p>	方法書に関連する事項ではありませんので、お答えすることができません。
7	対象事業実施区域及び調査範囲	2	ホ	<p>1.6.2 調査範囲</p> <p>排出ガスの最大着地濃度出現距離を2kmと予測し、調査範囲を概ね2倍の4kmとした理由は。</p>	<p>環境影響評価の項目ごとの環境影響を受けるおそれが認められる地域は、一般的に大気質の調査範囲が最も広くなります。そのため、予備調査の範囲は大気質の調査範囲と同じとしています。「長野県環境影響評価技術指針マニュアル」によれば、大気質の調査範囲は、「簡易な予測等により最大着地濃度地点を推定し、その範囲をもとに安全率を見込んだもの（例えば最大着地濃度出現地点の2倍程度を目安とするなど）を調査範囲とする。」としています。</p> <p>最大着地濃度の出現地点は、実際に1年間の気象データを取得し、そのデータを用いて年平均濃度を算出することにより求められます。したがって、環境アセスメントをどのように実施するかについてまとめる方法書の段階では、最大着地濃度出現地点はこれまでの類似事例から求めることとなります。伊那中央清掃センター建設時の報告書によれば、年平均濃度の最大着地濃度は2km付近に出現しています。このため、最大着地濃度地点は2km付近と設定しました。</p> <p>方法書では、同マニュアルに準じて調査範囲を設定しており、調査範囲を概ね2倍の4kmとしています。</p>

## 第1章 事業計画の概要

項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
8 主要設備等の概要	6	ト	予定地はすり鉢状の地形で煙が滞留すると聞く。煙が拡散するので安全という煙突の高さはどのように決めるのでしょうか。	周辺地域の大气の現況を把握した後、現在の計画である59mの煙突高さをもって煙突排ガスの拡散を予測シミュレーションして周辺地域への影響を検討します。煙突排ガスが地域に大きな影響を与えると考えられる場合は、煙突高さ等、施設計画の見直しを行います。
9 主要設備等の概要	6	ホ	排水は処理後再利用となっているが、用地選定委員会では地下水を200t/日使用することになっていた。全量を大気中に放出するということになるが。	地下水の使用量は焼却するごみの質や、処理方式によって異なりますが、用地選定委員会での200t/日は余裕を見込んだ最大値と考えられます。なお、処理後の排水は集じん灰の加湿に一部を使用しますが、大部分は最終的に排ガスの冷却のために噴霧し、水蒸気として大気中に放出します。
10 処理対象ごみ	6	ホ	表1.6-3 処理対象ごみ 149t/日の内訳、それぞれのごみの量を示す。	準備書でお示しします。
11 処理方式	6～7	ス	ゴミの処理行政について 伊那市では現在ゴミの分別収集が定着してきています。この方式がよりっていされていくと、焼却ゴミが減少してしまい、新ゴミ処理方式の計画されている高温巨大な焼却炉とは矛盾しないでしょうか	1の見解と同じです。 なお、焼却炉はできるだけ定格に近い量のごみを処理することが燃焼の安定化につながりますが、ごみの減量や分別が徹底され、焼却対象ごみ量が減少した場合は、2炉運転日数を減らし1炉運転日数を増やすなどして施設としての処理能力を調整することにより適正な運転を継続します。
12 処理方式	6～7	ス	新ゴミ処理方式で計画されているとする八乙女地区に埋立てられている不燃ゴミを掘り起して焼却する予定という、ならばおのづと高温な炉が必要不可欠となると思います。 この炉の熱原であるコークスは高騰していて採算が心配されます。 なおどんな物が埋められているかわからない物の燃焼ガス（猛毒）の発生が心配されます。	方法書p.6、p7にもありますように、平成23年度には専門家等による専門委員会を設置して複数の具体的な処理方式に絞り込みを行い、最終的には総合評価落札方式により、建設業者選定時に処理方式を決定する予定です。 八乙女最終処分場の埋立ごみのごみ質につきましては、準備書でお示ししますが、現在建設されるごみ焼却施設におきましては、排ガス対策は確立されておりますので、猛毒の発生はありません。

## 第1章 事業計画の概要

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
13	処理方式	6～7	キ	炉の形式を明らかにすること 炉の形式が明らかにならねば燃焼温度による気化や拡散の状況の予測は出来ない	処理方式によって排ガス量や騒音・振動を発生する機器の種類や大きさなどが若干異なることが考えられます。予測・評価に当たっては想定される処理方式の中から評価項目ごとに最大の環境影響が予想されるものを抽出し、そのデータに基づいて予測・評価を行います。この方法を採用することにより、どの処理方式が採用されても、実際の環境影響は予測された環境影響より小さくなります。
14	処理方式	6～7	ネ	炉の種類を選定よりも前にアセスメントの方法書を作成すること事態意味のないことではないか。 焼却方法、温度などによって、生成される化学物質も異なり、影響も変わって来るはずである。	13の見解と同じです。
15	計画値	7	セ	ダイオキシン類・重金属類について 国の基準値以下のきびしい基準で検討してほしい。	方法書で設定しました排ガスの計画値は、環境影響評価を行う際に、施設から排出される排ガス濃度をこの計画値を用いて計算しますので、先進の例のうちから、それぞれの項目で一番高い計画値を設定しました。 これらの数値は方法書に示してある通り法規制値等と比較して厳しい値となっています。 なお、重金属類については廃棄物処理施設の排ガスに適用される国の基準がありませんので、環境大気に対する予測評価は行わず、周辺土壌について調査を行い、そのうちの数か所については施設竣工後も継続調査を行うこととします。 計画値につきましては建設同意の時点で協議したいと考えています。
16	計画値	7	ホ	表1.6-4 排ガスに関する計画値 計画値はどのように定めたのか、その根拠は。	15の見解と同じです。

## 第2章 地域の概況

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
1	全般		ホ	引用した図表などをそのまま載せるのではなく、それらから何がよみとれるか、調査範囲を中心に解説する。	引用した図表は、そのまま載せることは少なく、適宜、取捨選択あるいは追加して記載し、調査範囲を中心に解説しています。
2	全般		ホ	全体として調査範囲についての記述が少ない。地元の文献調査が行なわれていないのでは。	調査範囲について、地元の文献を用いて、必要な事項を記述したと考える。
3	全般		ホ	出典としてホームページは不適當である。二次資料であり、時間がたてばアップされなくなり、参照できなくなる。	「長野県環境影響評価技術指針マニュアル」には、主な既存文献等としてホームページ掲載の資料も記載されています。方法書の出典が長野県や伊那市のホームページのものがありますが、原資料が存在し内容が違っていることはないため、問題はないと考える。
4	全般		ホ	対象事業実施区域について水象、地象の記述がない。地形、水害の歴史は重要である。	方法書のp.66、69及び74に、対象事業実施区域の水象、地形、地質、水害の歴史を記述しています。
5	全般		ホ	調査範囲における健康データを収集しておく必要はないか。	現在建設されるごみ焼却施設におきましては、排ガス対策は確立されており、また、全国には1200か所余のごみ焼却施設がありますが、施設が原因で健康被害にあった例は一例もありません。現代社会においては、人の健康へ影響を及ぼすおそれのある要因は、多種多様にあり、その因果関係を特定することは困難であることから、健康データの収集は行えません。
6	地象の状況	74	コ	過去の三峰川、新山川の災害の歴史を郷土史家に調査してもらう。	三峰川の近年の災害は、方法書p.74に記載したとおりです。専門家とも相談し、必要があれば準備書に更に記載します。

### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
1	全般		ホ	調査予定地点 各評価項目ごとに調査予定地点が示されているが、これらを一 覧表にまとめると相互の関連が理解しやすい。また、調査予定 地点の位置がわかるように、名称、住所、緯度、経度、標高を 示して欲しい。	方法書の段階では、調査地点の場所は未確定ですが、準備書又 は資料編で、各評価項目の調査地点の名称、住所、緯度、経 度、標高を一覧表にまとめてお示しします。
2	環境影響評価の 項目の選定及び その選定理由	132	オ	川の水については農業にとっても大切なものであり、大切にしたい ものなので「心配ない」では「心配」です。もっと確証がほ しい。	水質については、供用時の施設排水は施設内で循環使用して場 外へは放流せず、また雨水は調整池を通して三峰川へ放流しま すので、三峰川への影響はないと考えます。 また、焼却灰等の搬出車への積み込みは屋内で行うほか、外部 に面する扉は必要時以外は締め切ることとし、焼却灰等が建物 の外部へ飛散することを防止します。このため、雨が降っても 施設からの雨水に焼却灰等が混入する危険はなく、三峰川への 影響はないと考えています。
3	環境影響評価の 項目の選定及び その選定理由	132	ケ	上大島区には、井戸水を生活用水としている世帯が多い。市・ 広域連合の見解によれば、三峰川を挟んだ反対側の地点に上大 島区はあるため地下掘削時の地下水汚濁は及ばず地下水調査は 必要ないとしているが、仮に処理施設稼働後に排出される排気 ガスに含まれる有害物質の拡散が長期間わたり、地中に蓄積さ れることによる水質汚濁・汚染が予想される。特に上大島区は 通年南西風の風下に当たる三峰川筋の低地に位置することから 堆積の割合が高く心配される。その観点から上大島地域交流セ ンター付近に水質の調査地点を設ける必要があると思う。	施設の稼働による排ガスによる周辺水域への影響についてご心 配をされるご意見と思われませんが、排ガス中のダイオキシン類 は土壌へ蓄積する性質を有するわけですが、水域では水が入れ 替わるため、施設の設置前に調査して現況を把握しても数字に 表れにくい状況があります。 施設の稼働に伴う排ガスの影響につきましては、環境大気や水 質の調査ではなくダイオキシン類の蓄積状況が比較できる土壌 調査を各地点で実施することにより、経年での比較ができま す。
4	環境影響評価の 項目の選定及び その選定理由	132	ツ	環境影響評価項目で表3.1-7(2)の、水質に関して評価項目がな い。クローズドシステムで過去の事例でも汚染の実態はない、 ということだったが、雨水や蒸気は汚染されていないのか。説 明会において、広域連合側からは、雨の調査は考慮に入れな い、という説明だったが、それはどうしてなのか。川下は川下 り米として有名な水田もあり、伊那市もそれをアピールしてい く、と普段から広報などに書いているが、その配慮が感じられ ない。土壌・水質の汚染には特に気を配って欲しい。現状の状 態を把握するためにも、ぜひこの項目も調べて欲しい。	
5	環境影響評価の 項目の選定及び その選定理由	132	ト	地下水の重金属汚染について調べる項目がない。伊那市は川下 り米をブランド化しようとしているが、土壌・水質の汚染が心 配 現状を把握するためにも、ぜひ調査して欲しい。	



### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
6	環境影響評価の項目の選定及びその選定理由	132	へ	三峰川は伊那市の誇り「川下り米」の水源。大切な大切な市民の水源です。近辺（新山）にも大変美味しいお米を育てている方もいらっしゃいます（以前新聞で賞を取った方の記事がありました） 水源に影響が出ないのか？少しでも影響がでるおそれのある場合は 建設予定を白紙にしてください。	2の見解と同じです。
7	環境影響評価の項目の選定及びその選定理由	132	ネ	高遠・長谷などは近くの山からの湧水を水源とする上水道が多い。 あらかじめ水質の調査をすべきではないか。5.9mの排気筒からは、十分に届く範囲に水源が数多くある。 気化した重金属が飛散する可能性も十分に考えられる。これらは多くが分解されず蓄積されるものである。	2及び54の見解と同じです。
8	環境影響評価の項目の選定及びその選定理由	134	サ	方法書 P134（10）地形・地質について 「地形・地質についてはボーリング調査等で地質等を確認する」となっています。 私が調査したところ、天竜川上流事務所作成の地質図（昭和57年発行、大鹿）では、富県上新山、地質断層があります。また、独立行政法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 発行の「市野瀬」の地質図（昭和58年発行）には、上新山から新山川河口に向かって断層があります。また、その東側には馬越断層があります。この二つの断層の北側には、伊那市の防災マップ（平成19年3月発行）にある手良の活断層があります。この新山から高遠・手良へかけては、領家花崗岩類という同じ地質構造が続いています。そのため、今回の候補地の真下には、活断層がある可能性があるのではないかと思います。 私は、候補地にごみ処理施設を建設した場合、地盤も河川の合流地点であり礫や砂・泥が堆積しているものと思われるので、「活断層の有無」や「地盤の強度」を、環境影響評価で調査すべきと考えます。 なぜなら、建物が直下地震で壊れた場合に、周辺の田んぼや川・道路に被害が及ぶものと思います。	専門家の見解及び予備調査の結果から、現時点で最終候補地付近に活断層はないと判断しています。 活断層の位置が不明での調査は、現実的でないと考えます。

### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
9	環境影響評価の項目の選定及びその選定理由	134	ツ	環境影響評価項目表3. 1-10で地盤沈下や地形・地質の項目が予定されていないのはなぜか。予定地のすぐ上には地滑り危険地帯にもなっている場所であり、この項目はぜひ調べて欲しい。	対象事業実施区域はすでに水田になっており、この区域内に地滑り危険箇所はありません。 南側の山につきましても、地滑り防止法により指定された地滑りが起こっていたり、地滑りする可能性が高い「地滑り指定区域」ではなく、平成9年に「地滑り危険箇所」となっていますが、実際に過去には地滑りは起こっていないことや、診断カルテから対象事業実施区域に与える影響はないと判断しています。 なお、地盤沈下はp. 134の表3. 1-10(2)に示しましたように、環境影響評価項目としています。
10	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	ア	予定地は平坦でないため地形にあったアセスを実施して下さい。	平坦地でないことを考慮し、国土地理院の地形データを反映させて実施します。
11	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	ヤ	気象協会はマニュアルに沿った調査のみでなく 天伯社付近の地形に見合ったアセスをしてほしい。	
12	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	カ	観測地点を増やした、という事だが偏った測定地だけに平均値は取れないのではないかと国の基準に乗っとり半径4 kmの範囲で、東西南北同数の測定地が必要。	最終候補地周辺に大気汚染物質（ダイオキシン類を含む。）の発生源がないことから、環境大気の大気質濃度は低く、地域差はほとんどないと考えられるため、方法書に示した地点で十分であると考えます。
13	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	ク	施設稼働後にも今回の調査地点で同一物質について調べ、稼働後、稼働前の結果を公表していただきたい。	現況調査で実施した調査項目・地点のいくつかは、経年でのモニタリング調査を行い公表していきたいと考えています。 モニタリング調査を行う調査項目・地点は、環境影響評価の結果を踏まえ、今後検討いたします。
14	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	ア	水銀・鉛・カドミウム等重金属についての予測調査をして下さい。他施設のデータで予測できるので、参考にして実施して下さい。又建設後も継続して調査して下さい。	上伊那では、水銀の含まれるごみ(蛍光管、乾電池、水銀体温計など)は、可燃ごみや不燃物とは別に収集しており、処理対象物に含まれないことから、また、重金属類についても、処理対象物に含まれる量は微量であり、排ガス処理の過程で除去され、排ガス中に含まれることはほとんどないことから、調査・予測は行いませんが、対象事業実施区域で土壌に係る環境基準項目を、念のため周辺4地点で水銀・鉛・カドミウムの土壌調査を実施します。
15	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	ウ	重金属について似ている条件下にすでに在る施設のデータに基づいて予測値を出してほしい。	家庭や事業所が、ごみに蛍光管、乾電池、水銀体温計など水銀を含むごみを混ぜないように分別の徹底の啓発に努めて参りますので御協力をお願いいたします。
16	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	キ	重金属の現況調査を厳密に行うこと 空气中・流水・地下水・水道水源・土壌について調べる 調査地域は美篤・高遠・長谷・手良・東春近	

### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
17	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	へ	環境調査は希望する地区の全ての場所でやるべきではないでしょうか？ 一般的に煙突から出る煙が地上に降りるのは2キロ先がもっとも影響が出やすいときいています	長野県環境影響評価技術指針マニュアルに基づき、示された方法をもとに可能な限り検討を行ったものです。 大気質の環境影響評価の考え方につきましては、23の見解を参照ください。
18	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	タ	重金属について 空气中、流水、地下水、水道水源、土壌について長谷や高遠、美篤、手良、富県など2 km～4 kmまでの所はしっかり調査をしていただきたい。 (保育園、小学校、中学校、高校があるため)	14の見解と同じです。
19	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	ソ	気象、重金属等の調査地点は、できる限り増やしていただきたい。 (市内全集落を気象調査、重金属の調査は長谷、高遠、手良、富県、春近、美篤周辺の各集落)	気象につきましては、23の見解と同じです。 重金属等につきましては、14の見解と同じです。
20	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	キ	予備調査の範囲を半径4 kmとしてあるが この範囲に入る地区は美篤全区と高遠・長谷・手良・富県・美原となる これらの区を対象に気象・植物・哺乳類・両生類・は虫類等を調査の対象とするよう配慮してほしい できれば専門家の集団を組織してより正確な調査をしてほしい	大気質調査については、23の見解と同じです。 動植物調査については、65及び66の見解と同じです。
21	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	キ	調査・集約・発表の各部門に市民の代表が加わること 重点調査対象の地域に美篤・高遠・長谷も加えるべきである 我々の自主アセスではこの地は甚大な影響を受けることが分かっている 高遠・長谷両地区の上下水道の水源は森林の湧き水・沢水を利用している 煤煙は森林によって補足されることが知られているこの地域の現況を掌握しておかなければならないと考える	環境影響評価は専門の担当者が行うため、住民の方の直接的参加は控えていただきたく思います。ただし、現地調査見学会など現場で観測方法等を説明し、理解を深めていただくことなどを取り入れたいと考えています。 調査範囲につきまして「長野県環境影響評価技術指針マニュアル」によれば、大気質の調査範囲は、「簡易な予測等により最大着地濃度地点を推定し、その範囲をもとに安全率を見込んだもの（例えば最大着地濃度出現地点の2倍程度を目安とするなど）を調査範囲とする。」としています。方法書では、同マニュアルに準じて調査範囲を設定しており、十分であると考えます。なお、最大着地濃度出現地点より遠い地点では排ガスによる環境影響は低下して行きます。環境影響評価では最大着地濃度出現地点（排ガスによる影響が最も強く表れる地点）における環境影響を評価しますので、この地点における環境影響が問題なければ、他の地点で重大な環境影響が発生することはありません。

### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
22	調査、予測及び評価の手法の選定	142～185	ハ	環境アセスをやって問題のある結果が出れば対処すると言っているが、色々な調査でどのような結果が出ればどういう対処をするのか提示してもらいたい。また数値は平均ではなく、生データを提示してもらいたい。	環境影響評価では、方法書に示したように様々な環境要素について、現在の状況を現況調査で調査し、これをもとに施設の工事中及び稼働が開始されてからの影響について予測し評価するものです。予測結果によって保全対策等を検討しますので、結果が出ない時点での対処方法の提示は不可能です。数値につきましては、方法書に記載のとおり生データであったり、平均を算出する場合もあります。
23	大気質	142～148	イ	調査範囲が半径2キロ（概ね）となっているが自然環境はより広範囲に影響を受けると思います。雨により風により地下水大気は変化します。とうてい2kmで納るものとは思えません。より広い範囲（とくに子供達のいる場所や、田畑のある場所などを主に）調査し、後に取り返しのつかないという後悔の残らないものにして頂きたいと思います。	[調査範囲] 「長野県環境影響評価技術指針マニュアル」によれば、大気質の調査範囲は、「簡易な予測等により最大着地濃度地点を推定し、その範囲をもとに安全率を見込んだもの（例えば最大着地濃度出現地点の2倍程度を目安とするなど）を調査範囲とする。」としています。方法書では、同マニュアルに準じて調査範囲を設定しており、十分であると考えます。なお、最大着地濃度出現地点より遠い地点では排ガスによる環境影響は低下して行きます。環境影響評価では最大着地濃度出現地点（排ガスによる影響が最も強く表れる地点）における環境影響を評価しますので、この地点における環境影響が問題なければ、他の地点で重大な環境影響が発生することはありません。
24	大気質	142～148	ウ	最大着地はん囲を2kmと単純にはできないと思われる。地形風向を考慮した方法を考えてほしい。	[大気質調査] ◆環境大気の調査地点について 最終候補地周辺に大気汚染物質（ダイオキシン類を含む。）の発生源がないことから、環境大気の大気質濃度は低く、地域差はほとんどないと考えられるため、方法書に示した地点で十分であると考えます。 ◆地上気象の調査地点について 風は地形の影響を受けて風向・風速が変化します。このため、事業実施区域内の1地点とその周囲の7地点で地上風を観測する（通常のアセスでは事業実施区域1か所のみを観測です）とともに、事業実施区域内の1地点で上層風を観測し、この両者の観測値から、予測地域内の風向・風速を計算により求めます。以上の調査を実施することにより、事業実施区域を中心とした半径4kmについて施設の稼働に伴う排ガスの平均濃度を地形を考慮した3次元マスコンモデルと移流パフモデルにより予測・評価します。これらの方法により適切に予測・評価できると考えています。
25	大気質	142～148	ク	地上気象は、美篤側は2地点だけで把握できるか心配であり、もっと増やしていただきたい。また、上層気象は1地点だけであるが、排ガスの拡散を予測するため調査するものであると思うので、もっと多くの地点で行っていただきたい。	[水質調査] 2の見解と同じです。
26	大気質	142～148	ケ	段丘の下に滞留が起きていることを地区住民は生活実感としてもって居るので段丘の下（上大島区下の段）に風向き、風速等の気象を調べる調査地点が必要と思うがどうか。方法書の準備協議で何回か申し入れをして居ることもあるので是非、上大島地域交流センター付近に調査地点を設定してほしい。	
27	大気質	142～148	ク	調査地点を素案より増やしていただいた点は評価するが、環境大気は美篤は3地点であり、少なくとも上、中、下段にそれぞれ1地点ふやしていただきたい。また、⑦⑨調査地点はダイオキシン類だけの調査なので、これらの地点でも二酸化いおう、二酸化窒素、塩化水素等全ての有害物質を加えて調査していただきたい。	

### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
28	大気質	142～148	キ	気象の調査地点を市内全地域を調査対象とする	23の見解と同じです。
29	大気質	142～148	ト	大気質汚染の調査地点・回数が少なすぎるのではないか。	23の見解と同じです。
30	大気質	142～148	ナ	実際に59メートルの高さから何かをとばしてみしてほしい。それがどこにたまるのか、それがとても重要と思います。	23の見解と同じです。
31	大気質	142～148	エ	地形、気象、風向 考慮の時、平たん地のデータでなく、河川、山があることを入れたデータを示してほしい。	風は地形の影響を受けて風向・風速が変化します。このため、事業実施区域内の1地点とその周囲の7地点で地上風を観測する（通常のアセスでは事業実施区域1か所のみの観測です）とともに、事業実施区域内の1地点で上層風を観測し、この両者の観測値から、予測地域内の風向・風速を計算により求めます。その際、国土地理院の地形データを使用して、地形も考慮します。
32	大気質	142～148	コ	高遠、長谷は最も被害の及ぶところと思われる単なる同心円調査ではなく、地形により調査地点を設定すること。	
33	大気質	142～148	ツ	① 大気質汚染の調査地点・回数が少なすぎるのではないか。予定地はすり鉢状の地で、場所によって数値が大きく異なると考えられる。もっと地点を大幅に増やして調べて欲しい。周囲の風向きなどに熟知している、住民の自主アセスも取り入れて欲しい。 また、大気質が地面に落ちてそれがどうなっていくか、蓄積という面での調査もして欲しい。ダイオキシンは高温で処理をしても、外気に排出されて冷やされればまた再合成する物質であり、継続した調査が必要と考える。	23の見解と同じです。 なお、ダイオキシン類や重金属類については、土壌へ蓄積される可能性もありますので、代表的な地点の現況調査を行うとともに、この中のいくつかの地点については施設稼働後も継続的に調査を行う予定です。
34	大気質	142～148	サ	P142 大気質の調査について 方法書では、ダイオキシン類の調査は、全項目調査が5ヶ所、ダイオキシン類のみが2ヶ所となっています。 私は、① 手良地区中坪公民館 ② 高遠小学校 ③ 新山小学校 の3地点もダイオキシン類の調査をするべきと考えます。 なぜなら、候補地の風向きは、一定しておらず、煙突は高さ59mもありますので、排ガスは広範に広がると思われます。 手良地区中坪には背面に山があります。また、風は高遠市街地方面へも、新山の山沿いに向けても吹いています。 また、学校や公民館では、過去に除草剤を使用しているところもあります。そのため、環境影響を評価するには、事前に現況を調査しておくべきと考えます。	23の見解と同じです。

### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
35	大気質	142～148	ヒ	大気質調査地点について 少なすぎるとおられます。風向きを考慮して同一方向2地点 (遠・近)の大気質の現状をきちんと把握してください。候補地 から3～4kにあたる富県小学校周辺、美篤青島、手良小学校 周辺、高遠町、上新山には新たな調査地点の設置をお願いします。	23の見解と同じです。
36	大気質	142～148	フ	方法書144ページに大気質、気象の調査地点が記されている が、近隣の手良地区は年間を通して南風が多く、背面に山があ るので、住民の行政単位でもある中坪地区へ調査地点を設け る。	23の見解と同じです。
37	大気質	142～148	タ	予定地周辺は平地でなく、高低差の大きい所なので一般的な調 査というよりも、もっと複雑な地形に関する調査が必要ではな いかと感じます。最低今予定されているよりも3カ所以上の地 上気象をしていただき、安心だとはっきりと思えるものが知り たい。	23の見解と同じです。
38	大気質	142～148	チ	大気質の調査 ダイオキシン類の調査は子ども達の長い時間すごす場所である ところを調査地点として加えてください。高遠小学校など、そ のほかも。 さまざまな気象条件により想定以上に広範囲に影響を及ぼす可 能性を考えて特に子ども達の日常的にいる場を詳しく調査して 欲しいです。	23の見解と同じです。
39	大気質	142～148	セ	地形的に 山付の複雑地形で滞留しやすい地形で このような 施設を建てるのに 適地かどうかということで 大変気になっ ている。候補地選定において 気象条件をはずしていたので大 気質・気象条件をしっかりと調査していただきたい。風向・風 速の地点を3～4倍増やして複雑地形の中で風向・風速など により変化する、滞留・対流の変化がよくわかるように調査し てほしい。大気中でダイオキシン、重金属類が希釈されずに滞留 しないだろうか。不安である。 ※滞留せず安全のためには希釈されることが大切といわれるが 希釈されやすい地形かがきちんとわかる調査にするためにも調 査地点を大幅に増やす。	23の見解と同じです。

### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
40	大気質	142～148	ノ	<p>当地区は馬蹄形の山麓（高低差650m）と段丘（60m2段）のある複雑な地形であり、排気ガス中の汚染物質・浮遊粒子状物質等の滞留・蓄積が懸念されます。そこで、大気質予測の基となる地上気象調査箇所を増やしていただきたい。</p> <p>新山地区：最上部（予定地から5km主風向・逆） 理由：馬蹄形の洞地形であり滞留の可能性がある</p> <p>美篤地区：段丘の下（予定地から600m主風向） 理由：段丘下へ巻き込む気流が見受けられる。</p> <p>強化する理由：方法書1.5最終候補地決定の経過で、全く触れられていないことですが、気流の滞留は用地選定段階から地元住民が最も危惧していた点でしたが「後でやるから」という理由で用地選定の評価項目から気象大気質だけが削除され、その結果選ばれたのが予定地です。従ってこのアセスにおいて最も重点的に調査し住民の心配を払拭すべき項目で、この問題で行政の誠意ある対応なしには住民の安心・信頼は望めないと思います。それこそアセスの本旨であると思います。</p>	23の見解と同じです。
41	大気質	142～148	ホ	<p>気象現地調査地点 建設予定地周囲の地形は複雑である。三峰川対岸の北側の美篤地区は段丘になっており、弱い南風や逆転層が発生したときは段丘の下側に空気が滞留する、西風のときは三峰川に沿って高遠の方向に流れ、北風のときは新山の谷筋に吸い込まれるように入っていく現象がみられる。これらの気象の状況を図3.2-2の予定地点における調査で十分把握できるか疑問である。箇所の追加が難しければ位置を再検討してはどうか。</p>	23の見解と同じです。
42	大気質	142～148	テ	<p>大気質の測定地の数が少なすぎると思う。もっと増やして欲しい。これまでの住民の自主アセスにより風向き調査では、建設予定地の風向きは高遠、新山方面に多くいく、という報告がされていた。将来的な予測という面での現状把握としても、この地域の調査地点は入れて欲しい。</p> <p>また、調査地域を半径約4kmに設定しているのに、アセスメント実施同意を予定地近くの2区に限定しているのはおかしいと思う。影響が半径4kmと設定して調査するならば、そもそももっと広い範囲の住民からの同意を得ることが、環境保全につながると考える。</p>	<p>前段につきましては、23の見解と同じです。</p> <p>後段につきましては、方法書に関連する事項ではありませんので、お答えすることができません。</p>

### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
43	大気質	142～148	へ	<p>予定地は山が近く山の高い位置に集落があります。煙突の高さと、煙の流れる方向、集落との位置をしっかりとってください。その集落の方が、煙の中で（目には見えないとしても）日常を過ごす事がくれぐれもない様に。 そんなのはあまりにもかわいそうです。じりじり病気にさせるようなものです。しっかりと、しっかりと何度もなんども煙の流れる方向、高さを調べるべきです。</p>	<p>施設の稼働に伴う排ガスについての影響につきましては、23の見解と同じです。 現在建設されるごみ焼却施設におきましては、排ガス対策は確立されております。全国には1200か所余のごみ焼却施設がありますが、施設が原因で健康被害にあった例は一例もありません。 安全・安心な施設となるよう万全を期してまいります。</p>
44	大気質、 土壌汚染	142～148 168～170	コ	<p>土壌、気象の調査地点に市内各水道の水源地の背後の森林地帯を含めること。</p>	<p>[大気質調査] 23の見解と同じです。 [土壌調査] 土壌汚染調査は、最終候補地周辺に大気汚染物質の発生する恐れのある施設がないことから、土壌汚染濃度は低く、また地域差はほとんどないと考えています。このため、煙突から半径2km付近の最大着地濃度が出現すると想定される地点を中心にダイオキシン類について実施し、念のため周辺4箇所、水銀、鉛及びカドミウムについて調査を実施します。</p>
45	大気質、 土壌汚染	142～148 168～170	ホ	<p>重金属の追加 現在、わが国では大気環境基準には重金属は定められていない。排出基準にはカドミウムと鉛があるがごみ焼却炉は規制の対象になっていない。土壌環境基準では、カドミウム、鉛、六価クロム、総水銀、アルキル水銀、銅が入っている。EUでは環境負荷物質としてカドミウム、水銀、鉛、六価クロムについて自動車(ELV指令)や電気・電子機器(RoHS指令)に使用する材料や部品に含まれる濃度を基準値以下にするよう規制されている。国内ではまだ法制化されていないが、海外に輸出しているメーカーはこの規制に対応している。 重金属は従来から指摘されて問題でもあり、焼却場が稼働する頃には何らかの規制が行われることも考えられる。大気質および土壌汚染の調査項目にカドミウム、水銀、鉛、六価クロムを含めて評価することを提案する。 ごみの分別が進んでいるから、排ガス処理装置で除去されるから心配ないとかいわれているが、実際にデータで示すことが肝要である。特に今回の計画では掘り起しごみと下水汚泥が対象になっているので重金属が懸念される。</p>	<p>[重金属について] 54、59の見解と同じです。  また、同規模施設のデータが収集できるかどうかは分かりませんが、収集できた場合は、同じような排ガス処理設備を備えた施設のデータを準備書でお示ししたいと考えています。</p>



### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
46	大気質、 土壌汚染	142～148 168～170	セ	<p>候補地にあがった最初の説明会（H20. 5. 1 or 2日桜井公民館）で上伊那広域の説明は出ているのは水蒸気であってダイオキシン、重金属類は出ないとはっきり説明した。それが国の基準の範囲内であると説明が変わってきている。</p> <p>環境アセスメントについても、天伯社付近の候補地が本当に適地かどうかを含めてよく環境を調査するというように解釈できる説明だったが、現在の汚染状況を調査して建設後にはどのように変化するかは指標にすぎない、環境アセスメント内容だという印象である。</p> <p>アセスメント同意にあたってまずは、環境を徹底的に調査してもらえばよいという思いで同意していた人も何人もいた。</p> <p>大気・土壌とも調査地点を大幅に増やして細かい調査を要望する。大気・土壌ともに半径4km地点まで調査範囲を拡大してほしい。土壌とともに大気の調査も重要視してほしい。</p> <p>※滞留せず安全のためには希釈されることが大切といわれるが希釈されやすい地形かがきちんとわかる調査にするためにも調査地点を大幅に増やす。</p> <p>※希釈されやすいかどうか</p> <p>平均気温での調査ではなく最低気温・最高気温など温度変化によっても大気・気流の流れが変わってくるのではないかと。平均気温で調査するのではなく、春夏秋冬 季節と温度変化による細かく調査して季節と気温変化によって変わるだろう風向風速滞留状態を調査してほしい。</p>	<p>[大気質] 23の見解と同じです。</p> <p>[土壌] 54の見解と同じです。</p> <p>なお、気温は対象事業実施区域で補足的に観測しますが、予測には直接には使用しません。</p> <p>気流及び大気質の予測については、まず、三次元マスコンモデルで1時間ごとに流跡線を計算しますが、その計算には、そのときの気温状況または大気安定度<sup>注)</sup>に応じた実際の地上風観測値、上層風観測値及び地形の標高を使用して計算します。次に、移流パフモデルで1時間ごとに大気質の拡散予測を行います。拡散状況は風向、風速及び大気安定度で決まりますので、これらの状況を反映させて計算を行います。これを1年分（24時間×365日＝8,760回）繰り返して事業実施区域を中心とした半径4kmの範囲について施設の稼働に伴う排ガスの年平均濃度を予測・評価します。</p> <p>注) 大気安定度とは、風速と日射量または放射収支量によって決まり、大気が上下方向に移動しやすいか否かを示す尺度。</p>
47	大気質、 土壌汚染	142～148 168～170	フ	<p>方法書144ページで環境大気（気象を含む）、168ページで土壌汚染の調査地域は、対象事業実施区域から半径約4kmの範囲となっているが、「伊那清掃センター」の建設時の環境影響調査では半径5kmであった。今回は周辺の地形も以前より複雑であり最低でも調査地域を半径5kmとする。</p>	<p>[大気質] 23の見解と同じです。</p> <p>[土壌] 54の見解と同じです。</p>

### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
48	大気質 騒音・振動	142～148 149～154	タ	搬入路についての車の量や搬入経路が安全性や排気ガスなど、どのくらい環境へ与えるものなのか調査をしていただきたい。	搬入路についての車の量や搬入経路の安全性については、環境影響評価の対象ではありませんが、建設工事中の車両及び供用開始後のごみ収集車両の運転手に対して安全運転教育を徹底し、事故発生の防止に万全を期することとします。 工事関係車両またはごみ収集車両等の排ガスによる環境影響については、方法書p.147の表3.2-3に示した地点について予測評価を実施し、その結果を準備書でお示しします。 予測結果から、問題が生じるようであれば、それに対する保全対策について準備書でお示しします。
49	大気質 騒音・振動	142～148 149～154	ニ	搬入路は、毎日大変な交通量になり排ガスの問題が、増大すると思いますから、どの様な対策をたっているのでしょうか？	
50	大気質 騒音・振動	142～148 149～154	へ	焼却場を行き来するトラックの台数、ルートが環境にとって悪影響はないのかを検証してください。そのルートや台数を事前にそのルートとなる全ての住民に説明してください。	48の見解と同じです。
51	騒音・振動	149～154	キ	搬入路のアシスメント 搬入路を明確にし交通量により生ずる騒音、臭気、排ガスについて調べる	現時点で想定される4つの導入路についてカバーできる地点で道路交通騒音・振動、沿道大気について調査し、予測・評価します。

### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
52	騒音・振動	149～154	ケ	<p>市・広域連合の見解では工事関係車両及びゴミ収集車両等の主要運行ルートを三峰川右岸道路を想定しているようだが、これからの広域各地での話し合いの過程でそれ以外の既存の道路に新たに運行ルートが設定される懸念がある。その場合、安易な考えから例えば西伊那線・上大島上下線（通称 城坂）を運行ルートに加えると言うことにはならないだろうか？</p> <p>このことを予想するとき、対岸の押出沿道住居付近と異なる観点から上大島諏訪神社付近に騒音・振動調査地点を設ける必要があると思う。</p> 	<p>主たる搬入路は三峰川右岸道路と想定していますが、美篤、手良方面からの車両は、国道361号を經由して西伊那線を通ることも想定されますので、機会をとらえて環境影響評価とは別に西伊那線諏訪神社付近で交通量及び騒音・振動について現況を調査します。</p>

### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
53	水象	165～167	エ	地下水への影響→他地区のデータを示してほしい。	地下水への影響は、地下掘削工法、掘削深度、底面積、土質の状況、地下水位、揚水量により異なりますので、他地区のデータは参考にならないと考えます。このため、地下水への影響は準備書でお示しいたします。
54	土壌汚染	168～170	サ	<p>p168、土壌汚染の調査について                      方法書では、全項目を調査するのは、候補地のみとなっています。                      私は、周辺でカドミウムや鉛・総水銀の土壌調査を行う4地点でも、環境基準に定める全項目の土壌調査を行うべきと考えます。                      なぜなら、ごみ中間処理施設から出る飛灰には、カドミウム・鉛・総水銀以外のヒ素などの有害物質も検出されています。ですから、将来、煙突からの排ガスにより周辺に影響が出ているかどうかを調査したときに、元々からあったものか、排ガスにより増えたものかは、事前に調べておかないとわかりません。上伊那地方には、もともとヒ素などを含む土壌がある場所があります。</p>	<p>上伊那では、水銀の含まれるごみ(蛍光管、乾電池、水銀体温計など)は、可燃ごみや不燃物とは別に収集しており、処理対象物に含まれないこと、また、重金属類についても、処理対象物に含まれる量は微量であり、排ガス処理の過程で除去され、排ガス中に含まれることはほとんどないことから、ご意見の重金属の調査は必要ないと考えますが、念のため周辺4地点で水銀・鉛・カドミウムの土壌調査を実施します。                      砒素につきましては、現在砒素を使用した製品はありませんが平成8年以前の建設木材に防虫・防腐剤として使用されていたので、建築廃材を焼却すれば排ガス中に含まれる可能性はあると考えられます。新ごみ中間処理施設ではこうした建築廃材は処理しないことから、処理するごみの中に含まれる可能性はほとんどないと考えます。                      なお、現クリーンセンターの焼却灰は新施設での処理対象物には含まれておらず、掘り起こして処理することを予定している八乙女最終処分場にも焼却灰は埋め立てられておりません。                      また、新ごみ中間処理施設の処理対象物として予定しているクリーンセンター八乙女最終処分場の埋立ごみ、公共下水道汚泥及び感染性を除く公立3病院の医療系廃棄物のごみ質につきましては、準備書でお示しします。</p>

### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
55	土壌汚染	168～170	シ	<p>「我が国には重金属の排ガス基準がないものの、欧米諸国の基準を参考に安全な施設を計画」していただくという説明をしていただいた。</p> <p>上伊那広域連合から頂いた資料によると、約150トンのゴミを24時間燃やすと約100万立米の排ガスが出てくるとのことで、排ガス中に含まれる重金属の砒素の測定最大値は0.29mg/立米となっていた。この濃度は計画の施設で24時間出続けたとすると1日で290gの砒素を施設周辺にまき散らすことになる。さらに欧米基準値以下の0.01mg/立米という濃度であっても、1日当たり10g、1年で3.65kg、20年で73kgもの重金属等が本来まき散らさなくても良いこの地へ集中散布することになるとおもわれる。</p> <p>不安の多い、重金属の調査項目に砒素を加え、最低でも砒素・水銀・カドミウム・鉛の調査とし、専門家の見識で他の重金属の調査の必要性の有無についても検討していただきたい。さらにダイオキシン類の土壌調査と同様に、より広範囲での土壌調査の実施をダイオキシン類調査と同地点で抱き合わせて実施することを強く求めます。</p> <p>「分別を徹底して重金属類はほとんど含まれない」との説明があった、新施設で焼却予定となっている、現クリーンセンターの埋め立てゴミや焼却灰・下水汚泥・中央病院からのゴミに含まれる重金属とダイオキシン類の成分量についてもこの環境アセスでしっかりと調査し、公表していただきたい。</p>	54の見解と同じです。
56	土壌汚染	168～170	ク	<p>前述の(25)と同様土壌汚染についても、少なくとも上、中、下段にそれぞれ1地点増やしていただきたい。また、⑦～⑮地点はダイオキシン類だけの調査なので、これらの地点もカドミウム、鉛、総水銀を加えて調査していただきたい。</p>	<p>上伊那では、水銀の含まれるごみ(蛍光管、乾電池、水銀体温計など)は、可燃ごみや不燃物とは別に収集しており、処理対象物に含まれないことから、また、重金属類についても、処理対象物に含まれる量は微量であり、排ガス処理の過程で除去され、排ガス中に含まれることはほとんどないことから、調査は行いませんが、念のため周辺4地点で水銀・鉛・カドミウムの土壌調査を実施します。</p>
57	土壌汚染	168～170	セ	<p>重金属の調査項目に「ヒ素」を加えてすべての重金属について調査してほしい。</p> <p>「メチル基」は世代連鎖して遺伝子に関係するといわれている。「メチル基」を含む物質についても調査項目に加えてほしい。</p>	<p>重金属については、56の見解と同じです。</p> <p>「メチル基」は、有機物の一種ですから完全燃焼することによって二酸化炭素と水に分解されます。新施設ではダイオキシン類の発生抑制のため、高度な燃焼制御により完全燃焼しますので、有機物は分解されほとんど排出されません。</p>

### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
58	土壌汚染	168～170	ト	ダイオキシンの土壌汚染について 現在4地点を想定している場所は、候補地から2km前後。影響は広範囲に及ぶと思われるので対岸の美篤小学校はじめ調査の範囲をのばして欲しい。	土壌汚染につきましては、最終候補地周辺にダイオキシン類の発生源がないことから、土壌中のダイオキシン類濃度は低く、また地域差はほとんどないと考えています。このため、煙突から半径2km付近の最大着地濃度が出現すると想定される地点4箇所（美篤地区は伊那市役所美篤支所）で、土壌汚染濃度を調査することとしていましたが、素案に対する要望に基づき、方法書p168の表3.2-17に示す方法でp169の地点について調査を実施し、p170の表3.2-18に示す方法で予測し評価します。
59	土壌汚染	168～170	フ	方法書11ページによると、ダイオキシン類の発生を抑制するため炉内は800℃以上の高温に保って燃焼するとあるが、そのためごみに含まれる重金属類が気化されると思われる。これを完全にバグフィルターなどで除去するのは困難といわれている。手良中坪地区も含めて全地点で環境基準に定める全項目の土壌調査を行う。	重金属類の一部は炉内で気化し、高温の排ガスとともに炉から出ますが、ボイラ及び減温塔で排ガス温度を180℃～200℃まで下げます。ほぼ全ての重金属は、この温度においては固体です。したがって、この排ガスをバグフィルターに通すことで、ほぼ全ての重金属が捕集されます。
60	土壌汚染	168～170	ニ	土壌汚染は、永年の積みかさねで、重大な問題を引き起こすと思いますが、今の数値ではなく、経年の類値をシュミレーションしてほしいと思います。	54、58の見解と同じです。
61	土壌汚染	168～170	へ	<環境影響評価の時に考慮にいらしてほしい事> <既に伊那市に建設予定の焼却施設のある場所での正確な調査結果をよく調べて下さい。病気の発生率なども。なぜなら、重金属、もちろんダイオキシンも空中での濃度は薄くても地上に落ちればそこに溜まり蓄積して行く事になります>	土壌汚染につきましては54、58の見解と同じです。 また、現在建設されるごみ焼却施設におきましては、排ガス対策は確立されております。全国には1200か所余のごみ焼却施設がありますが、施設が原因で健康被害にあった例はありません。 安全・安心な施設となるよう万全を期してまいります。 現代社会においては、人の健康へ影響を及ぼすおそれのある要因は、多種多様にあり、その因果関係を特定することは困難です。

### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
62	土壤汚染	168～170	ハ	<p>土壤調査地点を多くしたのは評価できるが（煙の最大着地地点が2km前後と一般的には考えられているとのことだが）今回のような複雑な地形の場所では最大着地点がどのくらいになるのか全く、わからないのではないかと。実際に、現地で煙突の高さから煙を発生させてその煙がどういう濃度でうすめられていくのか、どの場所で滞留するのかを、何回も濃度を測定して検証しないと、最大着地点はわからない。まず先にそのようなテストを行ない、その場所、その地形での煙の最大着地点を予想し、その場所の土壤調査を実施してもらいたい。</p> <p>（※最大着地点2kmというのは、ほとんど風がなく煙突の煙が真上に登っている時の煙の着地点であると聞いたことがあるが、もしそうだとすると自然の中では常に風がふいており、複雑な地形をしている場所では、全く意味のない数字となる。）</p>	<p>最大着地濃度の出現地点は、実際に1年間の気象データを取得し、そのデータを用いて年平均濃度を算出することにより求められます。したがって、環境アセスメントをどのように実施するかについてまとめる方法書の段階では、最大着地濃度出現地点はこれまでの類似事例から求めることとなります。伊那中央清掃センター建設時の報告書によれば、年平均濃度の最大着地濃度は2km付近に出現しています。このため、最大着地濃度地点は2km付近と設定しました。</p> <p>伊那市中央清掃センター付近に比べ、今回の地点は平坦ではないことから、準備書で予測した年平均濃度の最大着地濃度出現地点が2kmから多少ずれることはあるかと思いますが、最終候補地周辺に大気汚染物質の発生する恐れのある施設がないことから、土壤汚染濃度は低く、また地域差はほとんどないと考えられることから、煙突から半径2km付近の最大着地濃度が出現すると想定される地点で土壤汚染調査を実施すれば、その現状を把握できると考えます。</p>
63	土壤汚染	168～170	ヒ	<p>土壤汚染(ダイオキシン類)調査について 現在4地点を想定されているようですが、いずれも候補地から2k前後です。影響はもっと遠くまで及びしますので広範囲の調査をお願いしたい。全国各地で松葉を使ったダイオキシン調査が行われています。比較的費用もかからないとのことですので候補地から4kを目安に富県(西部)、富県(東部)、手良、高遠地区の山林の松葉を使ったダイオキシン現況調査をお願いします。</p>	<p>54, 58の見解と同じです。</p> <p>また、土壤汚染の環境基準と比較する土壤汚染の測定方法は、「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁（水底の底質の汚染を含む。）及び土壤の汚染に係る環境基準」に定められており、松葉によるダイオキシン類調査は測定方法にはありません。</p>
64	植物	173～175	セ	<p>「川下り米」米の汚染影響を継続的に調査してほしい。</p>	<p>環境影響調査は生活環境、自然環境、快適環境（景観等）、環境負荷（温室効果ガス等）等への環境影響を対象としていること、農作物などの経年変化が確認できないことから、直接的には農作物等に対する影響の評価は行えませんが、排ガスの影響につきましては、大気質の項目で半径4kmの範囲について排ガスの濃度の予測を行います。</p> <p>なお、念のため、2km前後の地点でダイオキシン類等の土壤調査を実施し、施設稼働前の土壤の状況を把握し、経年で影響について事後に調査を行います。</p>

### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
65	植物 動物	173～175 176～177	コ	植物、動物の調査には在野の研究団体、（野鳥の会、山野草の会等）信州大学農学部等を網羅した調査団を組織すること。	方法書に記載した動物、植物に関する調査、予測及び評価の内容については、長野県環境影響評価技術委員会で審議されます。この技術委員会は大学教官などの有識者14名で構成されており、動物、植物については、4名の委員が調査、予測、評価の内容について意見を述べ、最終的には知事意見として事業者に提示します。この意見を受けて、動物、植物に関する環境影響評価を実施しますので、ご意見のような調査団を組織する必要はないと考えます。
66	植物 動物	173～175 176～177	ウ	動植物調査について200mのはんいだけでなく廃出物着地予想はん囲はすべてやってほしい。	動植物調査の範囲は、「長野県環境影響評価技術指針マニュアル」に基づき、対象事業実施区域及びその周辺200m以内としています。
67	植物 動物	173～175 176～177	エ	動植物に関する調査を広範囲にしてください。200mは少なすぎる。	これは、土地の改変や施設の存在（騒音・振動・車両の通過・夜間照明等を想定しています。）に伴う動植物の生育・生息環境の変化が動植物に与える影響のあると思われる範囲を200mとしていることによるものです。
68	植物 動物	173～175 176～177	オ	昆虫などではないので動物などの調査で200mでは、範囲がせますぎると思います。もっと広げ、せめてkmの単位で調査を希望します。	施設の稼働に伴う排ガスの影響につきましては、大気質の項目で施設の稼働による排ガスの影響について対象事業実施区域を中心に半径4kmの範囲について予測します。
69	植物 動物	173～175 176～177	ク	動植物調査が200m以内ということであるが、排ガスの噴出、機械類の騒音、大きな建物等を考えると少なく、500m程度が適当であると考え、要望する。	
70	植物 動物	173～175 176～177	ネ	動植物の調査が周辺200mということではせますぎるとはいか。59mの高さのある排気筒からの排気は風などにより思いもよらない距離まで達することが考えられる。	



### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
71	植物 動物	173～175 176～177	ツ	<p>動植物の調査で、年4回の調査は特徴のある動植物が最もよく見られる時期に行う、ということで通常この回数で行っている、と説明会で説明されたが、この周辺で見られるという、動物ではオオタカやカワセミ、カヤネズミをはじめとする希少動物がいるという報告があり、マツタケの産地でもある。このような貴重な動植物の生態が、四季に1回づつの調査できちんと把握できるとは考えにくい。もしも年4回、という回数をどうしても増やせないのであれば、住民による自主アセスの結果も取り入れて欲しい。また、アセスメントに住民参加も取り入れて欲しい。今までこの回数で他の施設も行ってきた、という理由だけで、この回数を決めるのはおかしいと思う。</p>	<p>動植物の調査は、「長野県環境影響評価技術指針マニュアル」に準じて、年間を通じた状況を把握できるように、動植物種に応じた適切に調査時期を設定しています。このことにより、動植物相が把握できると考えます。また、p.76～88には、既存資料により動植物の種を調査しています。ただし、調査範囲でオオタカ等の注目すべき動物・植物類（環境省レッドリストに掲載された種等）の生息・生育が確認され、さらに詳細な生態情報等（個体数、周辺環境等）が必要な場合においては、追加調査を実施します。</p> <p>なお、現地調査は専門の調査担当者が行うため、住民の方の直接的参加は控えていただきたく思います。ただし、現地調査見学会など現場で調査方法等を説明し、理解を深めて頂くことなどを取り入れたいと考えています。</p>
72	植物 動物	173～175 176～177	サ	<p>方法書 P175（植物）P176（動物）について 方法書では、候補地の周辺200mを調査するといいますが、工事用の車両などが通過する範囲はそれよりも広いと考えますので、調査範囲を候補地の周辺500mに広げるべきと考えます。</p> <p>なぜなら、候補地の周辺では、ヤマネズミが生息しているといえます（〇〇市在住の***の教師であるA先生の話）。</p> <p>また、上山田の下の段には、蛍の生息が確認されています（旧高遠町の調査）。そのほか、新山地区では、ハッチョウトンボを保護しています。県の調査では、高遠にオオタカが生息しているというものも出ています。</p> <p>候補地周辺には、このような、貴重な自然が残されている可能性があると思いますので、調査範囲を周辺500mに広げるべきと考えます。</p>	66の見解と同じです。

### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
73	植物 動物	173～175 176～177	ヌ	対象区域外の動植物への調査をふやしてほしい。山の多い地区にも多くの耕作地があり野菜づくりで生計をたてている住民もおり作物は、多数の人々が食するのですが土壌汚染が進むことがあれば出荷野菜作りは出来なくなってしまいます。松茸山も多く松茸栽培を長年研究し成果をあげている人もいます。ハッチョウトンボと云う本当に小さいきれいなトンボの生息地として知られているのですが他にも多くの昆虫類がいる所なのです。方法書の調査内容だけでは少なすぎると思います。私は標高900mの山間に住んでいますが夏の猛暑からも山は守ってくれました。自然の動植物へのダイオキシン類、その他の有害物質の害はないかどうかの調査もしっかりしてほしい。5年後10年後はどうなるか、と考えると心配です。	66の見解と同じです。
74	植物 動物 生態系	173～175 176～177 178	ニ	生態系への問題点、伊那谷の自然である植物、動物、特に八丁トンボの生息地松茸の栽培で有名な上新山地区に対する調査をしっかりと、継続して、おこなってほしい。	66の見解と同じです。
75	動物	176～177	セ	カワセミ、オオタカ、笹ネズミなどの生態系は半径200mではなく少なくとも半径2km地点まで拡大して調査してほしい。	調査範囲周辺で、オオタカ等の注目すべき動物類（環境省レッドリストに掲載された種等）の繁殖が確認された場合は、調査範囲を含め、適宜、専門家にヒアリングし、その意見を参考に調査を実施します。

### 第3章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

	項目	頁	意見者	意見の内容	事業者の見解
76	動物	176～177	タ	<p>予定地の近くに生息するといわれている「カヤネズミ」などの希少動物について大丈夫なのか、そのことをしっかりと専門家の意見もとり入れ調査をしていただきたい。</p>	<p>方法書のp.77に記載しましたように、「平成10年度 伊那市環境基本計画策定業務委託報告書」（平成11年3月 伊那市）及び「伊那市史 自然編」（昭和54年7月 伊那市史刊行会）の既存資料調査によれば、カヤネズミの生息は確認されていませんが、「高藤町誌 下巻 自然 現代 民族」（昭和54年7月 高遠町刊行会）によれば、カヤネズミの生息が確認されています。これらの情報を参考に、方法書に記載した調査方法、時期で動物相を把握し、注目すべき種（環境省レッドリストに掲載された種等）の生息の確認に努める予定です。</p> <p>なお、方法書に記載した動物に関する調査、予測及び評価の内容については、長野県環境影響評価技術委員会で審議されます。この技術委員会は大学教官などの有識者14名で構成されており、動物について、2名の委員が調査、予測、評価の内容について審査し、不備がある場合は意見を述べ、最終的には知事意見として事業者に提示します。この意見を受けて、動物に関する環境影響評価を実施します。</p> <p>また、現地調査により、調査範囲で注目すべき動物類（環境省レッドリストに掲載された種等）の生息が確認され、さらに詳細な生態情報等（個体数、周辺環境等）が必要な場合においては、適宜、専門家にヒアリングし、その意見を参考に調査を実施します。</p>
77	動物	176～177	ナ	<p>方法書の説明会に参加させていただきました。そこで出された意見を検討していただけてうれしかったです。とりわけ調査地点に新山小学校を加えていただいたことはうれしかったです。どうか新山ハッチョウトンボの生息地も加えて下さい。ハッチョウトンボはとてもデリケートな新山で唯一の観光となる貴重な生物です。どうしても、ここも調査地点に加えてほしいです。</p> <p>私は365日をここで暮しています。できれば365日の調査を希望したいくらいです。せめて春夏秋冬に各3回くらいの調査をしていただかないととても心配です。</p>	<p>66の見解と同じです。</p> <p>施設の稼働に伴う排ガスの影響につきましては、大気質の項目で施設の稼働による排ガスの影響について対象事業実施区域を中心に半径4kmの範囲について予測するための状況把握のひとつとして、地上気象調査を1年間連続で新山小学校で実施します。</p>
78	景観	179～181	ウ	<p>景観シュミレーションについて誰が評価するのか明確にして下さい。</p> <p>二つのアルプスと三峯川、天竜川の景観は誰が感動して観てくれるのか、この地域の者だけのものではないと思う。</p>	<p>環境影響評価は、事業者が実施することになっています。このため、景観についても、その評価は事業者が実施しますが、評価は、方法書に記載しましたように、景観に係る環境影響が実行可能な範囲で回避又は低減されているかの観点で行います。</p>